

キラリ看護部



Vol.8

手術室について



主任看護師
香川 真奈美

こんにちは。今回は手術のお話です。皆さん、手術室と聞くと、どんなことをイメージされますか？マスクとガウンを身につけた医者が「メス！」と言って看護師からメスを渡される場面、ドラマの中ではあるあるですね。

私たち手術室の看護師は少しでも緊張せずに手術を受けていただけるように工夫をしています。例えば、音楽。手術中に好きな音楽を流しています。「手術中はドリカムをかけて。」と希望された患者さん。流れる曲にやや年配の先生たちは、「これ誰？ドリカム？知らんわ。」と頭の上に？をいっぱい並べて手術開始。安心してください。知らなくても手術に支障はありません。



手術室の様子

さて、手術と言えば、痛みも心配ですよ。大丈夫です。愛瑠瑠萌医師がいます。当院の麻酔科医、上田愛瑠瑠萌医師です。なるべく体に負担なく麻酔をかけて痛みのコントロールをしてくれます。麻酔だってひとつだけじゃないんです。手術の方法や患者さんにあつた一番いい麻酔が行われます。「もつと痛いのかと思ってた。」「気づいたら病室だった。」と言ってくくださる患者さんも少なくありません。

そして、その手術室に入るまでに

は皆さんそれぞれの思いをお持ちです。Aさんは内視鏡検査で大腸に病気が見つかり、ご家族と一緒に手術の相談にいられました。外科の医師から病状を説明されると、「邑智病院でお願いします。」と当院での手術を希望されました。入院の日、Aさんにお会いすると少し緊張されているように見えたが、病室に案内すると、Aさんの表情が変わり、今度は覚悟が決まったかのように見えました。「いろんな思いがあつたんだろな、よく決心してくださいました。」と心の中でつぶやきました。手術室に入ったAさん、「ここまで来るとまな板の上の鯉ですな。無事に目が覚めればいいけど。」と緊張の面持ち。緊張、当然です。麻酔が効くまでそばで手を握りました。麻酔が始まると、ぎゅっと握っていたAさんの手はすっと力が抜けました。「お疲れ様でした。手術は無事に終わりましたよ。」と声をかけると薄目を開け頷いてくれました。私達もほっとする瞬間です。翌日、「無事に終わって安心しました。地元で手術してもらえるのはありがたいね。」とお話してくださいました。今は元気に外来に通っておられます。



邑智病院ではすべての手術ができるわけではありませんが、地域の病院だからこそ外来受診のときから関わり、手術室でお会いし、また外来で手術の後のご様子を伺い相談に乗ることが出来ます。そんな関わりを大切に、これからも皆様のお力になれたらと思っています。



手術室での看護師